

IV 貸出し

貸出しの方針

日野市立図書館の貸出しが、「いつでも、どこでも、誰にでも、何でも」貸出すことを目標にしていることは先に触れたが、貸出しの特色は、分館はもちろん、移動図書館もすべて個人貸出しであることにある。当館では本来貸出しということは個人貸出しを指すものであると考えるので、これを「特色」と言うのはおかしいのであるが、日本の移動図書館の大部分が、駐車場に本を置いてくる（これは移動図書館ではなく配本所への配本であろう）かグループへの貸出し（これは貸出文庫であろう）を行っているので、あえて特色として触れるのである。個人貸出しを行なうのは、

1. 個人貸出しが当然である。
2. 移動図書館は、市全域に貸出サービスを及ぼすための「手段」であって、移動図書館それ自体が図書館機能の特別な部分を受持つ「目的」ではない。だから、図書館として当然行なっている個人貸出しを移動図書館でも原則とするのである。
3. 利用者が図書館を利用する場合に、あるグループに属さなければ利用できない、或は単独の個人では利用できないというようなことは、本来あるべきではない。
4. グループ貸出しをする理由の一つに、個人貸出しでは、貸出す事務量が大きい、巡回周期が長すぎる、登録の確認

がしにくい、などが挙げられるが、当館ではこれらを一応解決した。

5. 「ブックモビルと貸出文庫」という本によると、始め個人貸出しで発足しても「2回目、3回目と巡回度が増すにつれて、次第に利用者の数が減り、やがて“利用者の固定”が問題となった。」これを打開する方法としてグループ貸出しを行なうようになったといわれる。当館ではこのような利用者の減少がなく、逆に個人貸出だからこそ利用が多いと考えられるのである。

移動図書館が定置の図書館と変わらないサービスをする当館では、当然移動図書館におく図書の質的な高さは他の図書館と変わらない。また移動図書館の積載冊数はわずか1,500冊であるから、移動図書館の書架は、図書館の蔵書のショーウィンドーであると考えられる。このため、移動図書館車にどういう図書を積むかが、最も重要な仕事となってくる。毎朝、数人の職員が書架を点検し、少しでも魅力のある配架ができるよう、図書をいかかえ列びかえている。この作業は図書に関する知識をもち、利用者の要求を知っていなければできない、最も高度な専門知識を必要とする作業である。

貸出方法

図書館は地域住民のものであり、利用者が気軽に使用できる図書館でなければならないはずである。そのためには利用者が簡単に、面倒な手続をしないですむ貸出方法でなくてはならない。

1. 利用者の範囲 小学生以上の日野市民及び市内勤務者。
幼児は保護者の貸出券で利用できる。
2. 登録 図書館を初めて利用する時に行う。この手続は貸出登録票に住所、氏名、職業等を記入するだけである。ただし、学生、市内勤務者には身分証明書を提示してもらう。又、児童（小・中学生）の登録は保護者にしてもらうことを原則としている。
3. 貸出券 登録が済むと、すぐに成人（高校生以上）には四枚、児童の場合二枚の貸出券を発行する。あとはこの貸出券一枚につき一冊の図書を貸出す。したがって、登録が済めば、その場から図書館を利用できることになる。この貸出券は高幡図書館、多摩平児童図書館、移動図書館のいずれにも共通して使用できる。
4. 貸出期間 成人、児童とも二週間。
5. 貸出冊数 成人四冊、児童二冊。
6. 紛失・破損 万一紛失したり、ひどく破損した場合は現物弁償を原則としている。
7. 督促 一ヶ月延滞すると、ハガキにより、督促を行う。数回督促しても返却されない場合には、館員が直接回収に行く。なお返却は貸出を受けた場所にすることを原則としているが、日野市役所、各支所、出張所においても受付けている。
8. 貸出記録のとり方 ブラウン式によっている。（前川恒雄；貸出しと閲覧：日本図書館協会刊 を参照）



問題点

1. 貸出券の発行の際、記入は図書館で行うべきものであるが、移動図書館の場合、貸出、返却などの作業がいそがしいために、利用者に記入させる場合が多い。
2. 貸出期間は二週間であるが、移動図書館車の巡回周期が二週間ということで、日付票の返却予定日を捺印しても、それが返却日ではなく、巡回日と考えている人が案外多いと思われる。
3. プラウン方式は貸出作業が簡単であるが、一冊一回の貸出記録となり、返却の時、一人が四冊返却すると四回の検索をしなければならない。移動図書館の場合、駐車時間が限られ、利用者が集中するので、この短所が大きな障害になっている。そのため、現在、ブック・カードをはさんだ貸出券は輪ゴム

でまとめ、各駐車場ごとに区別し、その中は利用者の五十音順に排列して、返却は氏名を聞いて、貸出冊数を確認するだけで貸出券は返している。その場でブック・ポケットにブック・カードを差しこんでいるが、図書とブック・カードが合ないと、誰の返却で相違がでたのか、全然わからず、返却の確認が不十分である。

利用実績

登録者	9,674名	移動図書館	7,558名	成人	6,036名
		児童図書館	1,370名		
		高幡図書館	746名	児童	3,638名

(昭和42年2月25日現在)

図書館の登録者は上記の通りである。昭和42年2月1日現在、日野市人口は7,588名であり、約12.6%の市民が図書館を利用することになる。

日野市は東京都心に約40分という地域にあるため、ベット・タウンとして大団地をかかえる市である。したがって、年々人口は増加している。市人口構成の特徴は男女とも20~35才の人が多いことである。図書館利用者の上でははっきりとは表われないが、成人利用者の多くはこの年代と推定できる。

登録者での特色はそのほとんどが主婦、児童であるということが言える。このことは図書館の開館日、開館時間に原因すると考えられる。つまり、サラリーマン、学生等は日中不在が多く、図書館を利用する機会がないことである。

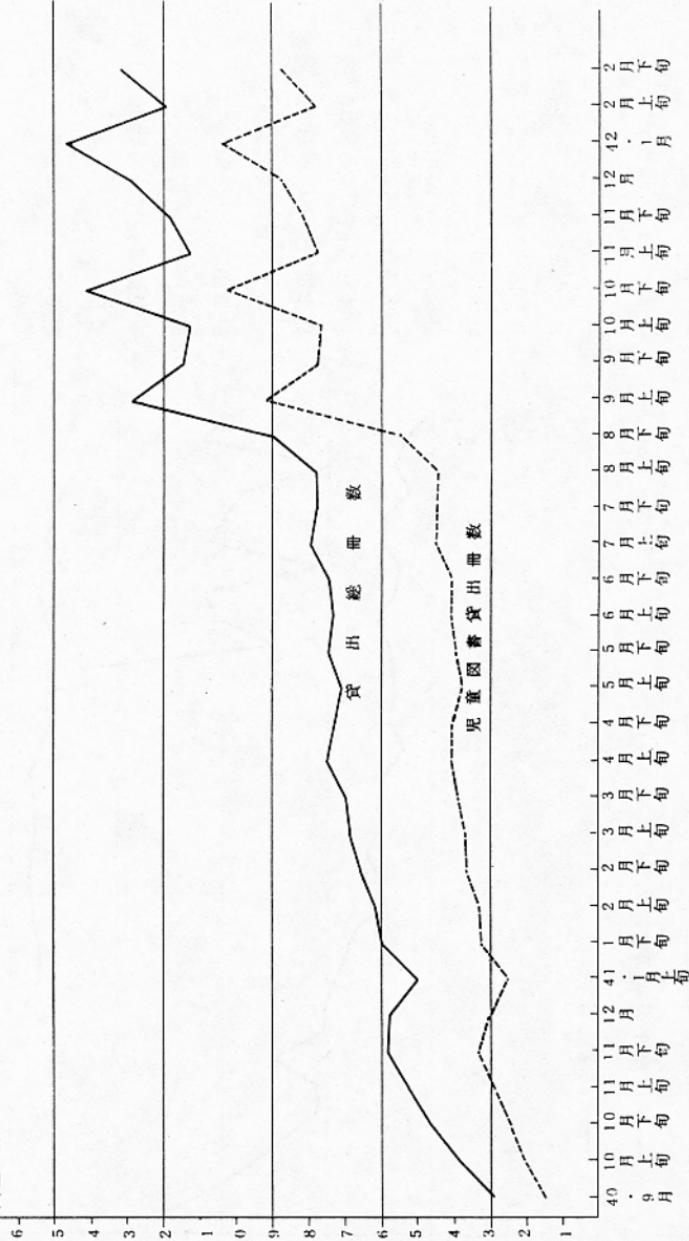
貸出冊数

図書館においては貸出した図書の主題別統計はとっていないが、成人の場合、やはり、文学が一番利用されるといえる。貸出図書の問題での特長をあげると、

1. 日野市立図書館には現在のところ、禁帶出図書はなく、図書はすべて貸出すこと。
2. 児童図書の貸出が多いこと。これは
 - イ 成人利用者が子供に与える図書を借りること。
 - ロ 多摩平児童図書館の利用が多いこと。
 - ハ したがって、月曜日～金曜日まで毎日午後開館しており、児童図書の回転率が高いことがあげられる。
3. 育児書など実用書の利用が比較的高い。これは利用者の大半が主婦であることからして当然のことであるが、主婦の年令層が若いことが原因していると考えられる。
貸出冊数の実数は別表の通りになる。この数字は個人貸出の実数である。現在3ヶ所に団体貸出を行っているが、その分は含まれていない。

	移動図書館		高幡図書館		多摩平 児童 図書館	一般 合計	児童 合計	総計
	一般	児童	一般	児童				
40.9月	1,493	1,390				1,493	1,390	2,883
10月上旬	1,939	1,925				1,939	1,925	3,864
10月下旬	2,327	2,300				2,327	2,300	4,627
11月上旬	2,477	2,785				2,477	2,785	5,262
11月下旬	2,588	3,217				2,588	3,217	5,805
12月	2,852	2,931				2,852	2,931	5,783
411月上旬	2,453	2,487				2,453	2,487	4,940
1月下旬	2,700	3,218				2,700	3,218	5,918
2月上旬	2,759	3,159	66	131		2,825	3,290	6,115
2月下旬	2,856	3,282	90	339		2,946	3,621	6,567
3月上旬	3,018	3,350	130	330		3,148	3,680	6,828
3月下旬	2,935	3,636	130	244		3,065	3,880	6,945
4月上旬	3,302	3,817	83	223		3,385	4,040	7,425
4月下旬	3,122	3,871	76	159		3,198	4,030	7,228
5月上旬	3,203	3,548	80	231		3,283	3,779	7,062
5月下旬	3,343	3,713	111	247		3,454	3,960	7,414
6月上旬	3,136	3,838	98	242		3,234	4,080	7,314
6月下旬	3,274	3,842	94	195		3,368	4,037	7,405
7月上旬	3,234	4,238	189	271		3,423	4,509	7,932
7月下旬	3,042	4,102	274	361		3,316	4,463	7,779
8月上旬	3,112	4,170	263	243		3,375	4,413	7,788
8月下旬	3,104	4,175	323	279	1,041	3,427	5,495	8,922
9月上旬	3,379	3,791	386	370	4,972	3,765	9,133	12,898
9月下旬	3,402	3,539	300	292	3,911	3,702	7,742	11,444
10月上旬	3,419	3,830	210	209	3,610	3,629	7,649	11,278
10月下旬	3,475	3,913	442	494	5,849	3,917	10,256	14,173
11月上旬	3,234	3,784	270	255	3,728	3,504	7,767	11,271
11月下旬	3,268	3,760	302	358	4,014	3,570	8,132	11,702
12月	3,643	3,927	442	398	4,459	4,085	8,784	12,869
42.1月	3,550	3,727	731	544	6,086	4,281	10,352	14,638
2月上旬	3,646	3,780	449	485	3,552	4,095	7,817	11,912
2月下旬	3,835	4,034	577	600	4,119	4,412	8,753	13,165
計	9,7120	11,1079	6,116	7,500	4,5341	10,3236	16,3920	26,7156
41年4月 -42年2月	6,6723	7,7399	5,700	6,456	4,5341	7,2423	12,9196	20,1619

(单位：冊)



分館別貸出冊数

— 移動図書館

---- 多摩平児童図書館

----- 高幡図書館

(単位千冊)

a. 移動図書館による個人貸出開始

駐車場 3.7

b. 駐車場を 4.0 に増加

c. 駐車場を 4.7 に増加

d. 高幡図書館による貸出開始

e. 駐車場を 5.0 に増加

f. 多摩平児童図書館開館

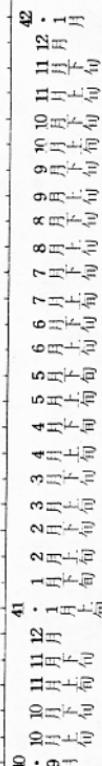
g. 駐車場を 5.5 に増加

h. 駐車場を 5.7 に増加

i. 高幡図書館による貸出、正式に

発足

j. 駐車場を 6.0 に増加



当館の図書貸出実績を日本の公共図書館と比較してみると次のようになる。ただ昭和41年度の他館の実績は不明なので40年度の数字を用い、当館の数字は41年4月から42年2月までの11カ月間の数字である。

	人口7万台の 公共図書館		全公共図書館 (6大都市も含む)		日野市立 図書館
	平均	最高	平均	最高	
登録者数	1,486	4,493	1,323	17,721	9,674
個人貸出冊数	18,986	66,986	13,677	172,713	201,619

これでみると、当館の貸出実績は、同一人口レベルにおいてはもちろん、全公共図書館の最高である。また登録者数においても、同一人口レベルの最高の二倍以上となっている。

人口との対比をみると、

人口に対する登録率は 12.6%

人口に対する貸出率は 2.7倍 であり、これは日本の公共図書館の最高である。しかし欧米諸国の公共図書館に比較すると、登録率は約半分、貸出率は三分の一にしかすぎない。

